

薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン の進捗について

厚生労働省健康局 結核感染症課

薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(2016-2020)

1. 普及啓発・教育

- ・ 1.1 国民に対する薬剤耐性の知識・理解に関する普及啓発活動の推進
- ・ 1.2 関連分野の専門職に対する薬剤耐性に関する教育、研修の推進

2. サーベイランス・モニタリング

- ・ 2.1 医療・介護分野における薬剤耐性に関する動向調査の強化
- ・ 2.2 医療機関における抗微生物薬使用量の動向の把握
- ・ 2.3 畜水産、獣医療等における動向調査・監視の強化
- ・ 2.4 医療機関、検査機関、行政機関等における薬剤耐性に対する検査手法の標準化と検査機能の強化
- ・ 2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する統合的なワンヘルス動向調査の実施

3. 感染予防管理

- ・ 3.1 医療、介護における感染予防・管理と地域連携の推進
- ・ 3.2 畜水産、獣医療、食品加工・流過程における感染予防・管理の推進
- ・ 3.3 薬剤耐性感染症の集団発生への対応能力の強化

4. 抗微生物製剤適正使用

- ・ 4.1 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進
- ・ 4.2 畜水産、獣医療等における動物用抗菌性物質の慎重な使用の徹底

5. 研究開発・創薬

- ・ 5.1 薬剤耐性の発生・伝播機序及び社会経済に与える影響を明らかにするための研究の推進
- ・ 5.2 薬剤耐性に関する普及啓発・教育、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用に関する研究の推進
- ・ 5.3 感染症に対する既存の予防・診断・治療法の最適化に資する研究開発の推進
- ・ 5.4 新たな予防・診断・治療法等の開発に資する研究及び産学官連携の推進
- ・ 5.5 薬剤耐性の研究及び薬剤耐性感染症に対する新たな予防・診断・治療法等の研究開発に関する国際共同研究の推進

6. 国際協力

- ・ 6.1 薬剤耐性に関する国際的な施策に係る日本の主導力の発揮
- ・ 6.2 薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン達成のための国際協力の展開

薬剤耐性(AMR)に関する検討体制

薬剤耐性(AMR)に関する小委員会

- 厚生科学審議会感染症部会の下に設置
- 薬剤耐性対策アクションプラン(教育・普及啓発、動向調査・監視、感染予防・管理、抗微生物薬適正使用、研究開発、国際協力等)に関する対策のうち、厚労省が所管する専門的・技術的事項の審議
- 薬剤耐性対策アクションプランのうち、主として、ヒトの健康に関する対策の進捗評価 等

抗微生物薬適正使用(AMS)等に関する作業部会

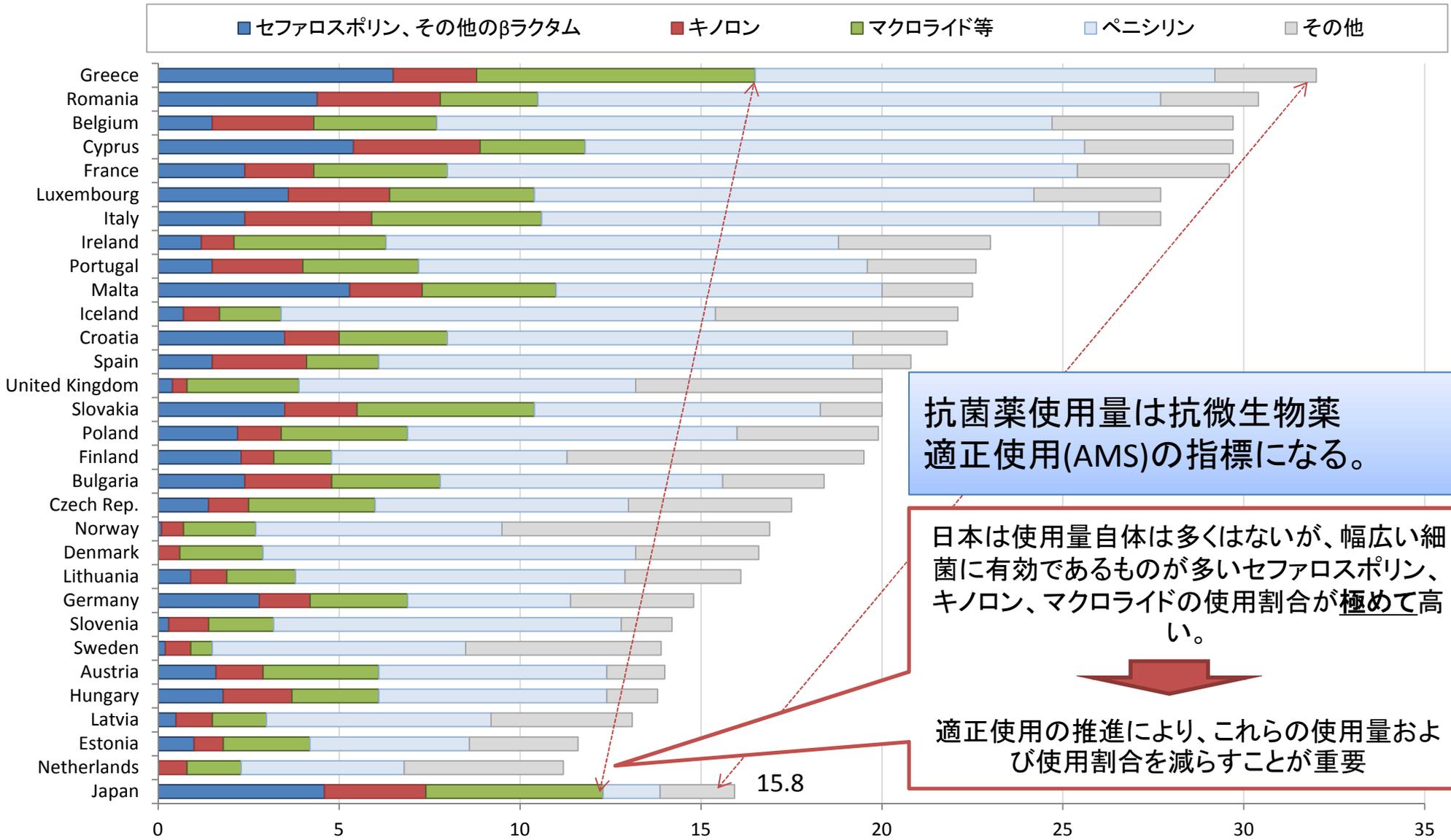
- 薬剤耐性(AMR)に関する小委員会の下に設置
- 適正使用に関する専門家等により構成
- 抗微生物薬適正使用等に関する技術的助言
 - 抗微生物薬適正使用を推進するための指針等の検討
 - 研究結果等に基づいた抗微生物薬適正使用に関する施策の提言 等

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

- 薬剤耐性に関する動向調査・監視等に関わる実施機関、専門家等により構成
- 薬剤耐性に関する「ワンヘルス・サーベイランス」に関する技術的助言
 - 動向調査・監視の分析項目や体制等の検討
 - 動向調査・監視の結果に基づく薬剤耐性対策に関する施策の提言 等

薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(2016.4.5)における数値目標

医療分野における抗菌薬使用量



抗菌薬使用量は抗微生物薬適正使用(AMS)の指標になる。

日本は使用量自体は多くはないが、幅広い細菌に有効であるものが多いセファロスポリン、キノロン、マクロライドの使用割合が極めて高い。

↓

適正使用の推進により、これらの使用量および使用割合を減らすことが重要

人口1000人あたりの平均一日抗菌薬使用量

抗微生物薬適正使用に向けた取り組み

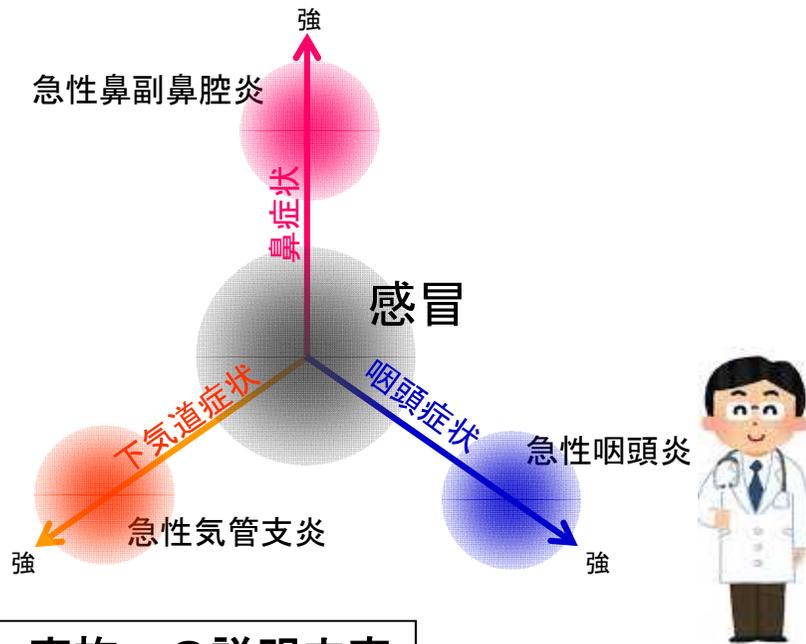
アクションプラン:目標1、4

- ・日本で使用される抗菌薬のうち約**90%**は外来診療で処方される**経口**抗菌薬である。

- ・**外来診療**の現場で活用できる「**抗微生物薬適正使用の手引き 第一版**」を2017年6月1日発表

急性気道感染症

診断・治療の考え方



患者・家族への説明内容

- ・多くは対症療法が中心であり、抗菌薬は必要なし。休養が重要。
- ・改善しない場合の再受診を。

急性下痢症

診断・治療の考え方

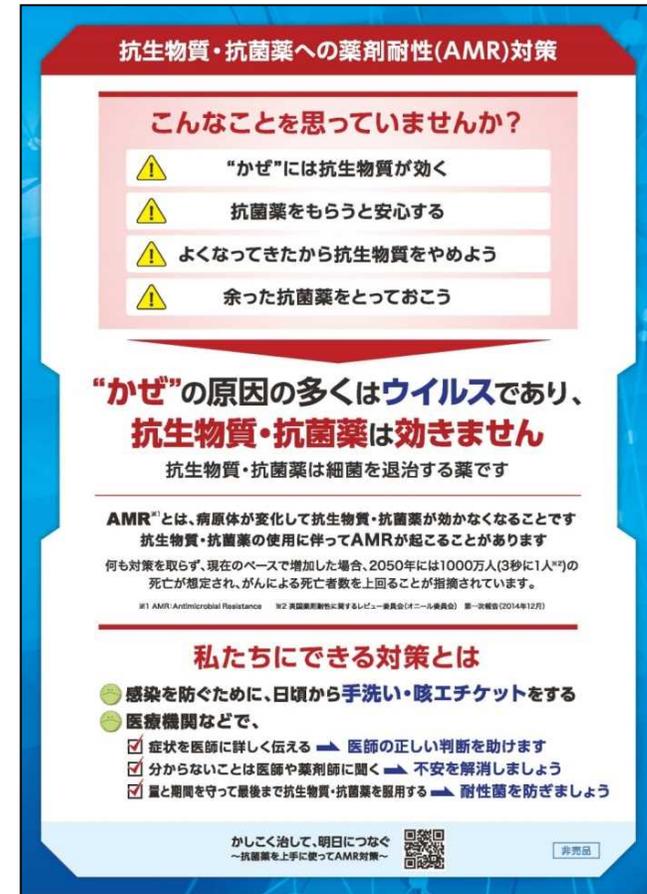
- ・細菌性・ウイルス性に関わらず、多くは自然に治るため、抗菌薬は不要。
 - ・対症療法や水分摂取励行が重要。
- ✓ 全身状態(日常生活への支障程度)
 - ✓ 海外渡航歴
 - ✓ 血性下痢
 - ✓ 発熱
- 等を踏まえて、便の検査や抗菌薬処方を検討。

患者・家族への説明内容

- ・多くは対症療法が中心であり、抗菌薬の使用は、腸内細菌叢を乱す可能性あり。
- ・糖分、塩分の入った水分補給が重要。
- ・感染拡大防止のため、手洗いを徹底。
- ・改善しない場合の再受診を。

薬剤耐性 (AMR) コラボレーションポスター・リーフレット

アクションプラン: 目標 1, 4



作成部数・主な配布先

制作物	作成部数	主な配布先
ポスター(A2サイズ)	約3,500部	自治体、各関係団体など
リーフレット(A4サイズ)	約21万部	

薬剤耐性ワンヘルス動向調査のイメージ

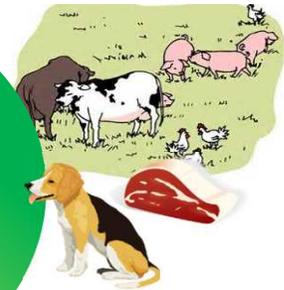
アクションプラン: 目標2

- ヒト・動物・食品・環境に関する各サーベイランスのデータに基づき、統合的な分析、評価を実施し、抗菌薬使用量や耐性率の公表、耐性菌の拡散の早期発見、水平伝播の存在の把握等を図る。
- ワンヘルス動向調査年次報告により、本アクションプランの成果指標を評価。
- 平成29年度の報告書を10月18日に公表。

- ヒトの抗菌薬使用量 (NDB・JACS)
- 入院患者での耐性菌 (JANIS)
- 入院患者での医療関連感染症 (JANIS)
- 薬剤耐性菌による感染症 (NESID)



薬剤耐性
ワンヘルス
動向調査



- 家畜用食用動物への抗菌剤使用量
- 畜産動物糞便中の耐性菌
- 食品中における耐性菌
- 愛玩動物における耐性菌

- 水圏・土壌における耐性菌等

AMR臨床リファレンスセンター事業

アクションプラン: 目標 1, 3, 5

AMRアクションプランに基づく情報・教育に係る業務を行う目的で設立

研修の企画・運営

- 医療従事者、自治体担当者に対するAMR研修会
- 感染症専門の医師に対するアウトブレイク時の対策等の実地疫学研修

情報の提供

教材の提供

薬剤耐性情報サービス

- 薬剤耐性、アウトブレイクに対する相談窓口
- E-learningの開発・公開
- 教育教材の開発等
- ウェブサイトの運用

感染症教育コンソーシアム事務局

- 関係団体・学会の関係者や専門家で構成した感染症教育コンソーシアムを開催
- マニュアル・ガイドライン案作成
- 特定層(患者・小児・施設入所者)への啓発素材の作成
- 人材登録の体制構築・運営
- 市民モニター等からの意見聴取
- 研修・普及啓発の評価

人材登録

研修内容の評価

情報発信
内容の評価

AMRワンヘルス東京会議(2017年11月13・14日)

国際会議(11月13日)

【場所】笹川記念会館(東京都港区三田3-12-12)会議室1・2

【参加者】

アジア太平洋諸国の保健省・農水省AMR担当者:マレーシア、バングラデシュ、ミャンマー、韓国、タイ、中国、オーストラリア、カンボジア、フィリピン、インドネシア

国際機関等:米国CDC、WPRO、OIE、ASEF、Wellcome Trust

日本:厚労省、農水省、JICA、国立感染症研究所、AMR臨床リファレンスセンター

【概要】

○セッション1

(アクションプランの策定について)

ワンヘルスの記載を盛り込んだアクションプランを策定済みの国の経験を共有することで、アクションプランの策定を促す。

(抗微生物剤適正使用の推進について)

医師・獣医師への研修や適正使用のマニュアルの普及が重要であり、各国のツールを共有。

(ワンヘルスサーベイランスの推進について)

サーベイランスを行う上で必要となる検査体制と情報を収集するシステムの構築の支援策を検討。

○セッション2

国際機関等からのAMRに関する支援策に関するプレゼンを受け、各国のニーズのマッチング。

○ラップアップ・セッション

会議のサマリー文書を作成。

シンポジウム(11月14日)

【概要】

○基調講演: サリー・デイビス英政府首席医務官

AMRの現状、国際的なコミットメントについて(先進国と途上国)、技術的な方略、英国の状況について

○抗微生物薬適正使用

大曲AMR臨床リファレンスセンター センター長(他2名): AMR臨床リファレンスセンターの普及・啓発活動について

○ワンヘルス・サーベイランス

柴山国感研細菌第二部長(他2名): 日本のサーベイランスシステム(JANIS)の紹介、支援の状況

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの進捗

1 普及啓発・教育

国民の薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進する。

薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議

AMR臨床リファレンスセンター

- ・ポスター(3,000部)、リーフレット配布(21万部)
- ・「薬剤耐性へらそう！」応援大使
- ・薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動の表彰
- ・研修、セミナー開催(2017年度～)

2 動向調査・監視

薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握する。

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

AMR臨床リファレンスセンター

- ・薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書の作成
- ・院内感染サーベイランス(JANIS)
- ・感染症発生動向調査(NESID)
- ・国内サーベイランスの統合を検討(2017年度～)

3 感染予防・管理

適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止する。

院内感染対策中央会議

AMR臨床リファレンスセンター

- ・感染症発生動向調査(NESID)における薬剤耐性菌感染症の発生数のモニタリング
- ・ワクチン接種・院内感染制御の推進
- ・資材作成・研修・人材育成(2017年度～)

4 抗微生物薬の 適正使用

医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進する。

抗微生物薬適正使用(AMS)等に関する作業部会

AMR臨床リファレンスセンター

- ・「抗微生物薬適正使用の手引き」作成
- ・小児領域における適正使用の手引きを開発中
- ・その他ガイドラインの作成(2017年度～)

5 研究開発

薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発を推進する。

薬剤耐性感染症(ARI)未承認薬迅速実用化スキーム

- ・耐性菌感染治療薬の創薬支援

6 国際協力

国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進する。

グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)

AMRアジア閣僚級会合(2016年4月)

- ・院内感染サーベイランス(JANIS)システムの海外展開
- ・AMR/One Health 東京会議開催(2017年11月)